

私見創見 Tuesday

子どもの頃からずっと、チャルメラにあこがれていた。そんな僕がやっとチャルメラにありつけたのは、数年前の雪の夜、津軽にある奥さんの実家のこと。

いた奥さんのお母さんは、サングラスで雪道に飛び出して、おじいさんが運転してきた軽のワゴンを止めてくれた。

「だ。70過ぎたはずだから」「あ、まだまだじゃない」「真つ白な湯気と、粋な話と熱くてうまいラーメン。人生初のチャルメラに喜ぶ僕に、奥さんのお父さんがこんな話を聞かせてくれた。津軽では昔、いろいろな屋台が歩いていた。スイカ、トウモロコシ、シジミ、わらびもち、ボン菓子。中には「ジャガイモから片栗粉を作る機械を使わせてくれる屋台」なんていう変わり種も。加工の屋台なんて初めて聞いた、おもしろいものだ。そんな話にあわせて、僕は八戸らしくイカの屋台の話をした。残念ながら僕は体験したことがないけれど、昔は朝にイカを売って、くれる屋台がいて、朝からおいしいイカ刺しを食べられたらしい、と。

「お兄さん、おそくまで」「な、あ、オラまだ若いん

冬の思いやり

熱さと湯気が生むUX



玉樹真一郎

八戸学院大 地域経営学部特任教授

たまき・しんいちろう 1977年、八戸市生まれ。八戸高、東京工業大、北陸先端科学技術大学院大を卒業。2001年、任天堂に就職後、プランナーとしてゲーム機「Wii」を企画担当。退社後にUターンして企画コンサルティング業を営む。著書に『「ついやってしまう」体験のつくりかた』など。

「アツマママキ納豆」なんてCMもあったけど。ふと思ふ。昔のご飯やみそ汁は、熱かった気がする。冬の朝ごはんが並ぶコタツの上は湯気がもうももんと立ち込めて、朝日が入る口には家族の顔が見えないほどだった。

とてつねに、急に「ビジネスの話になるが、昨今UXという言葉がはやっている。UXはお客さま(ユーザー)の意味で、Xは体験(エクスペリエンス)という意味。要は「お客さまの体験こそ大切ですよ」ということになる。

当たり前前の話のようだが、案内ややさしい。例えばスマホなら、画面はどれほど大きくて写真を何枚記録できて、どれほど早く動作して……といった数字で表現できる性能ばかりを、かつてのメーカーは追い求めてきた。しかし、これはUXではない。

北国の冬の身体にとって、高級な材料でも卓越した調理でもなく、熱さこそが何よりのごちそうであり、思いやりですらある。

「例えは、雪かきの後のコーヒ。大義だ(面倒だ)、こわい(疲れた)、このコーヒいやけどする!」と文句を言えど、内心では冷えた身体を思いやってくれたことに感謝しながら飲むものだ。寒いほどに思いやりは湯気となつて、目に見えるようにな

当たり前の話のようだが、案内ややさしい。例えばスマホなら、画面はどれほど大きくて写真を何枚記録できて、どれほど早く動作して……といった数字で表現できる性能ばかりを、かつてのメーカーは追い求めてきた。しかし、これはUXではない。

「例えは、雪かきの後のコーヒ。大義だ(面倒だ)、こわい(疲れた)、このコーヒいやけどする!」と文句を言えど、内心では冷えた身体を思いやってくれたことに感謝しながら飲むものだ。寒いほどに思いやりは湯気となつて、目に見えるようにな

「例えは、雪かきの後のコーヒ。大義だ(面倒だ)、こわい(疲れた)、このコーヒいやけどする!」と文句を言えど、内心では冷えた身体を思いやってくれたことに感謝しながら飲むものだ。寒いほどに思いやりは湯気となつて、目に見えるようにな

たわけでもない。しかし、それでも心癒うまいたたためてくれた人たちのおかげで、僕は生きて来られた。も、初詣の甘酒も熱かった。湯気があがっていた。僕をあたためてくれた人たちのおかげで、僕は生きて来られた。

※「私見創見」は今年最後の掲載となります。新年は1月6日付紙面からスタートします。